

説 教

北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2018年4月8日（日）

主 題：「恵みから恵みへ生きる人生」
一実りある人生一

テキスト：ヨハネ福音書15章1－5節

はじめに

- ・今年、北浜チャーチの年間聖句は、ヨハネの福音書15章5節です。
15:5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。
私たちは、この聖句を今年一年、教会に与えられた年間聖句として覚えたいと思います。
- ・さて、ヨハネの福音書15章以降は、イエスがアパールーム（upper room）で、過越しの祭りの食事を終えてからのストーリーです。イエスの一行は、オリブ山のふもとにあるゲッセマネの園に向かいました。今日のテキストは、その途中で語られたものと思われます。
- ・イエスの「ぶどうの木のたとえ話し」の内容は、ヨハネ14章でユダが尋ねた質問に対する答えでもあります。
14:22 イスカリオテでないユダがイエスに言った。「主よ。あなたは、私たちにはご自分を現わそうとしながら、世には現わそうとなさらないのは、どういうわけですか。」
14:23 イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたし のことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。
- ・この後、イエスはゲッセマネの園で、天の父なる神に涙を流して祈りを捧げられました。そして、ついに捕らえられ、十字架の道へ向かわれました。イエスは受難直前に、愛する弟子たちに神のお心を語られたのでした。
- ・ところで、イエスの弟子たちはユダヤ人でした。イエスのご自身が地上から去られた後に、彼らがモーセの律法に再び戻ることがないように願いました。彼らが古い律法に従って生きるのではなく、新しい律法（自由の律法）につながり、豊かな人生を送ることを勧めました。そのために、イエスはぶどうの木の比喩を語られたのでした。
- ・ところで、「わたしはぶどうの木です」とは、イエスの第7番目の神性宣言です。イエスはこれまでに、「わたしは何何です。」（I am statements）と語ってこられました。例えば、次のようです。
6:35 わたしがいのちのパンです。
8:12 わたしは、世の光です。
10:7 わたしは羊の門です。

10:11 わたしは、良い牧者です。

11:25 わたしは、よみがえりです。

14:6 わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。

15:5 わたしはぶどうの木です。

- ・イエスはぶどうの木ですが、天の父なる神は農夫です。そして弟子たちは枝であります。私たちもまた枝です。枝自身には成長する力も、実をつける力もありません。イエスが弟子たちに語られたように、ぶどうの木につながっていなければ、枯れてしまいます。イエスは言われました。

15:4 わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。

枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。

- ・ですから、ぶどうの木であるイエスにつながることは、たいへん重要です。では、この年間聖句を少し掘り下げてみたいと思います。

大切なポイント

1. 神のイスラエルへの願い

- ・旧約聖書を読んでいますと、神は全人類への救いの計画を具体化し、ひとつの民族を選ばれたことが分かります。それはイスラエルの民です。そして、神と全人類の関係は、神とイスラエルの関係から学ぶよう備えられました。その一例として、神はイスラエルをぶどうの木、ぶどうの実にたとえられました。神に選ばれたイスラエルは、本来その実を結ばせるべき存在でした。しかし、聖書は次のように語っています。

・エレミヤ書

2:21 わたしは、あなたをことごとく純良種の良いぶどうとして植えたのに、どうしてあなたは、わたしにとって、質の悪い雑種のぶどうに変わったのか。

・詩篇

80:8あなたは、エジプトから、ぶどうの木を携え出し、国々を追い出しそれを植えられました。

80:9 あなたがそのために、地を切り開かれたので、ぶどうの木は深く根を張り、地にはびこりました。

- ・しかし、現実のイスラエルは違っていました。

イザヤ書

5:2 彼はそこを掘り起こし、石を取り除き、そこに良いぶどうを植え、その中にやぐらを立て、酒ぶねまでも掘って、甘いぶどうのなるのを待ち望んでいた。ところが、酸いぶどうができてしまった。

- ・それが神の前でのぶどうの木、ぶどうの実であるイスラエルでした。ぶどうの木は、その実を結ばせることが本来の目的です。しかし、イスラエルは神のお心から離れ、実を結ばせることがありませんでした。

- ・今から約2千年前、イエスはマルコの福音書において、ぶどう園のたとえ話をされました。

マルコの福音書

12:1 それからイエスは、たとえを用いて彼らに話し始められた。「ある人がぶどう園を造って、垣を巡らし、酒ぶねを掘り、やぐらを建て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた。

12:2 季節になると、ぶどう園の収穫の分けまえを受け取りに、しもべを農夫たちのところへ遣わした。

12:3 ところが、彼らは、そのしもべをつかまえて袋だたきにし、何も持たせないで送り帰した。

12:4 そこで、もう一度別のしもべを遣わしたが、彼らは、頭をなぐり、はずかしめた。

12:5 また別のしもべを遣わしたところが、彼らは、これも殺してしまった。続いて、多くのしもべをやったけれども、彼らは袋だたきにしたり、殺したりした。

12:6 その人には、なおもうひとりの者がいた。それは愛する息子であった。彼は、『私の息子なら、敬ってくれるだろう。』と言って、最後にその息子を遣わした。

12:7 すると、その農夫たちはこう話し合った。『あれはあと取りだ。さあ、あれを殺そうではないか。そうすれば、財産はこちらのものだ。』

12:8 そして、彼をつかまえて殺してしまい、ぶどう園の外に投げ捨てた。

- ・このぶどう園のあと取り息子とは、イエス・キリストです。彼ら雇われ人たちは、しもべ（神から遣わされた預言者）に暴力をふるっただけではなく、最後に遣わされたぶどう園の息子まで、殺してしまいました。イエスは、イスラエルの歴史をこのように「たとえ話」で指摘されました。

- ・愛する皆さん。イエスは十字架にかかる受難直前の時に、「ぶどうの木」のたとえ話をされたのでした。そこから「ぶどうの木」のたとえ話しが、どんなに重要かが分かります。では、そのたとえ話の意味はどのようなものでしょうか。

- ・まず、イエスは「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。」（15:5）、と言われました。

- ・イスラエルは本来、純良種の良いぶどうであるはずでした。農夫である神は、良いぶどうの木として植えたのに、質の悪い雑種のぶどう木となってしまいました。良い甘いぶどうの木として植えられたのに、酸いぶどうの木になってしまいました。これが現実でした。

なぜ、でしょうか・・・？

⇒ それは、イスラエルの不従順と罪のためでした。

- ・しかし、農夫である神は愛であるお方です。そこで神は、ぶどうの木が良質のぶどう

の実を結ばせる計画を実行されました。そのご計画が、イエス・キリストにあって成就しました。

2. 神の聖徒たちへの願い (命の共同体)

1) イエスはまことのぶどうの木です。

- ・イエスは、「わたしはまことのぶどうの木です。」(15:1)と言われました。「まこと」とは、偽物、違うものに対して「ほんもの」という意味です。すなわち、イスラエルの歴史に見るぶどうの木ではなく、「まことのぶどうの木」であると言われました。
- ・皆さん。ぶどうの木が良い実を結ばせるためには、農夫は必要です。

{例 話}

ドイツ、モーゼル川両側には、延々とつづく美しいワイン畑があります。古代から流れるモーゼルの源流はフランスで、そこからルクセンブルクを経由して、ドイツに入り、そしてライン川につながる全長544kmの大川です。緩やかに蛇行する川の両側は、見事なワイン畑です。ドイツに入り、はじめの町がTrier(トリエル)です。私はこの町の大学で勉強していました。

- ・私の下宿先から大学まで、自転車で約1時間はかかる距離でした。その間、ずーと大学へ通いました。そこで、驚いたことのひとつは、ぶどう畑で働く農夫たちの姿でした。彼らは、寒い雪の中でも、また日差しの強い夏も、毎日畑に出ていました。
- ・そして、秋の刈り入れの期間は、わずか1週間です。その期間は学校も休みに入り、大人も子ども皆総出で畑に出て、ぶどうの収穫をしていました。喜びの時でした。彼らは1週間の刈り入れ時のために、一年間忠実に働いているのを見ました。そして、あの有名なモーゼルワインが生まれるのです。

2) 農夫の仕事

- ・農夫は植えた一本一本のぶどうの木を、大切にケアします。
ぶどう栽培ですが、欧州のぶどう畑は横棚形式で。日本は上棚形式です。当時のパレスチナのぶどうの栽培は、枝を地面にはわせるものでした。ぶどうの木に夜露を吸収させるためでした。今でも、イスラエルではそのように、地面をはっている枝を見かけることがあります。しかし、実を結ばせるためには、枝と地面との間に適度な空間が必要です。そこで農夫はやや大きめの石を地面に敷いて、その上に枝をはわせるのです。そうすることによって、枝が実を結ぶようになります。
- ・農夫である天父神は、私たちが実を結べるような環境を備えてくださるお方です。
- ・その農夫の仕事は、大きく分けて二つあります。

① 枝を取り除くこと

15:2 わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除きます。

- 日本語の新改訳聖書では、「わたしの枝」と訳されていますが、英語訳 (every branch)、ドイツ語訳聖書 (jede Rebe) はそうではありません。⇒「おのおのの枝」となっています。
- また「実を結ばないもの」は、原語では「実を結ぼうとする意志 (will) をもたないもの」とあります。もうひとつ農夫の仕事は、「刈り込み」をすることです。

② 刈り込みをすること

15:2 実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。

- 「刈り込み」という語は、原語では“kathairo” (カタイロ：清め落とす) です。古代、人々は枝を刈り込むことを「きよめること」にたとえました。「清め落とす」という意味から「刈り込む」(剪定する)と訳されました。独ドイツ語訳聖書では、“reinigen” (ライニゲン：きれいに洗うの意味) という語が使われています。このヨハネ15章5節では、文脈から「枝を刈り込む」(剪定する)と訳されています。刈り込みの目的は、多くの実を結ばせるためです。「刈り込み」は農夫の仕事で、枝は自分ではできません。
- 「刈り込み」は、より豊かな実を結ばせるためです。刈り込みを経験しないクリスチャンは、一人もいません。人生で試練に会うならば、それはある意味で、父なる神が刈り込みをしようとしておられるのです。
 - ⇒それは、豊かな実をつけるために必要なことです。
- イエスは「刈り込み」によって、豊かな実が結ばれると言われました。聖書にはさまざまな実について書かれています。たとえば、
 - (1) 聖霊の実：ガラテヤ人への手紙
 - 5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、
 - 5:23 柔和、自制です。
 - (2) 光の結ぶ実：エペソ人への手紙
 - 5:9 光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実なのです。
 - (3) くちびるの実：ヘブル人への手紙
 - 13:15 ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。
- 神は「刈り込み」によって、幸いな実を結ばせてくださいます。

3) 実をむすばせる秘訣

- ところで、私たちは人生において実を結ぶことを願います。イエスは、実を結ばせる秘訣について、2つのことを語られました。

① みことば

- ・ 15:3 あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです。

イエスは不思議なことを言われましたね。「ことばによって、もうきよいのです。」、行いではありません。例えば、イエスが弟子たちの汚れた足を洗われた、洗足という行為ではありません。みことばによって、きよくされると言われました。

- ・ 先ほど、「刈り込み」という語は、「清め落とす」という原意から、独語で“reinigen”（きれいに洗う）という意味があると申しましたが、イエスはここで、「ことばによって、もうきよいのです。」と言われました。このイエスのことばは、15章5節にもつながっていきます。つまり、行いではなく、みことばに権威があるのです。「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。」（15:5）。そのみことばに権威があるのです。実を結ぶ秘訣のも一点は、イエスにとどまることです。

② イエスにとどまりなさい

- ・ 枝はどれほど努力しても、自力で実を結ばせることはできません。

15:4 わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。

- ・ ここに、実を結ばせる大切な秘訣が書かれています。

⇒ 「わたしにとどまりなさい。」

私たちは、簡単に離れてしまいやすいものです。そして実を結ばないものとなります。

- ・ 皆さん、神を信じているから自動的に実が結ばれるのではありません。「わたしにとどまりなさい。」イエスのみことばに、とどまることです。とどまるとは、自分の自由と責任でなされることです。イエスは言われました。「あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです。」（15:3）
- キリストが流された御血には、汚れや、染みをきれいにする力があります。そのお方が語れる聖書のことばに、とどまることです。

- ・ 枝である私たちが、ぶどうの木にとどまる秘訣は、みことばです。具体的には、日々のデボーションを通し主イエス・キリストと交わることです。ぶどうの枝が実を結ぶためには、ぶどうの木の養分が必要です。同じように、私たちはデボーションの中で養分を得ることができます。
- ・ このように考えてきますと、ぶどうの木と枝の関係は、命あるつながりとなります。つまり、ぶどうの木と枝の関係は
⇒ 「いのちのつながり」です。
- ・ 皆さん、キリストの教会は「いのちの共同体」です。イエスは教会の頭であ

り、生きておられます。「いのちの共同体」は、キリストの命がある群れです。そのような「いのちの共同体」こそ、キリストの教会です。私たちはそのような教会建設を、今年のゴールとしたいものです。主がご臨在くださり、命ある群れには、汚れや染みは不必要です。それは天の御国の前味ではありませんか。イエスは言われました。

- ・「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます (15:5)

2018年、私たち各自はぶどうの木であるイエス・キリストにしっかりとつながりましょう。そして何よりも、イエスから十分な養分をいただき、キリストの実を結ばせていただくではありませんか。

ま と め

主 題：「恵みから恵みへ生きる人生」

－実りある人生－

- ・今日のメッセージをまとめてみましょう。

1. 感謝をささげよう

⇒農夫（天父神）、ぶどうの木（イエス・キリスト）、枝（私たち）

2. ぶどうの木にしっかりとつながること

⇒みことばの養分を十分いただく

- ・そして「いのちの共同体」である教会を建てていきましょう。

その人は、「神のマスタープランに生きる幸い」を体験する人生となります。

そして、実りある人生へ進みます。感謝。

* God bless you!